

ボール改修型

型式番号	RB-79CRB-79-C
英語名	
所属	連邦軍
パイロット	不明
装甲材質	不明
装備	120mm 低反動キャノン 180mm キャノン砲
作品名	OVA「機動戦士ガンダム 0083 STARDUST MEMORY」映画「機動戦士ガンダム 0083 ジオンの残光」
参考書籍	G ジェネレーション F ガンダムコレクション NEO2

内容

G ジェネ

連邦軍の宇宙用戦闘ポッド。

一年戦争中に大量生産されたボールの後期生産タイプである。

改修されてはいるが、元々簡易戦闘ポッドに過ぎないため、目立った性能の違いはない。

もともと戦時の急造兵器であったため、一年戦争終結とともにほとんどの機体が解体され、ごく少数の機体だけが拠点防衛などに使用されていた。

デラズ紛争の際には、地球軌道艦隊に所属する機体がソーラ・システム II の展開や護衛に用いられた。

しかしほとんど戦力としては役に立っていなかったようである。

ガンコレ

宇宙作業用の SP-W03 型スペースポッドをベースとし、装甲や武装を加えることで兵器化した宇宙用のモビルポッド。

ロー・ハイミックス思想のもと、連邦軍の主力兵器である RGM-79 ジムとの連携を前提として開発された。

主武装は 180mm キャノン砲 1 門で搭乗者は 1 名。

機体前部に装備された 2 本のアームで簡単な船外作業を行うことも可能である。

U.C.0079 年 6 月のプロトタイプ完成に平行して量産が行われ、大小様々なアップデートを積み重ねながら、一年戦争終結までに約 1200 機が参戦し、ほぼ期待通りの戦果をあげている。

戦後、新型機が本格的に開発・量産されることはなかったが、未組み立ての部材などを利用した更新機や作業性を向上させたアームに換装したバージョンなども生産され、U.C.0080 年代半ばまで現役として活躍した。